

Ⅱ 調査結果の概要

1 発育状態調査結果

(1) 身長

平成25年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表1)

男子の身長は、6歳、11～12歳、14～16歳で、前年度の同年齢より0.1～0.7 cm増加しており、最も増加しているのは16歳の0.7 cmである。10歳及び17歳は前年度と同じ。5歳、7～9歳、13歳では、0.1～0.8 cm減少しており、最も減少しているのは8歳の▲0.8 cmである。

女子の身長は、5歳、9歳、15歳で、前年度の同年齢より0.2～0.3 cm増加しており、最も増加しているのは5歳及び9歳の0.3 cmである。12歳は前年度と同じ。6～8歳、10～11歳、13～14歳、16～17歳では、0.1～0.5 cm減少しており、最も減少しているのは8歳の▲0.5 cmである。

② 男女の比較(図1、表5)

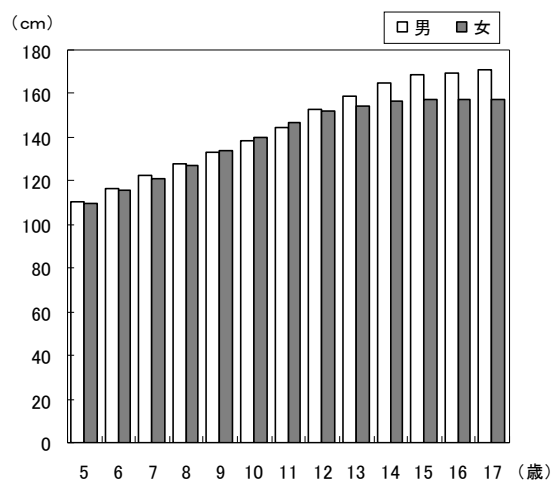
男女の身長を比べると、9～11歳で女子が男子を上回っており、11歳では2.2 cm、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4)

全国平均値と比べると、男子は、6歳、12歳、15歳で全国平均値を0.1～0.3 cm上回っているが、その他の年齢では、全国平均値を0.1～0.7 cm下回っている。

女子は、5歳、9歳、12歳、15歳で全国平均値を0.1～0.4 cm上回っているが、その他の年齢では、全国平均値を0.1～0.4 cm下回っている。

図1 年齢別 男女別 身長の平均値



(2) 体重

平成25年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の体重(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表2)

男子の体重は、6歳、11歳、13～17歳で、前年度の同年齢より0.2～2.0kg増加しており、最も増加しているのは15歳及び16歳の2.0kgである。10歳は前年度と同じ。5歳、7～9歳、12歳では、0.1～0.7kg減少しており、最も減少しているのは9歳の▲0.7kgである。

女子の体重は、9歳及び16歳で、前年度の同年齢より0.3～0.5kg増加しており、最も増加しているのは16歳の0.5kgである。6歳及び17歳は前年度と同じ。5歳、7～8歳、10～15歳では、0.1～0.3kg減少しており、最も減少しているのは8歳、11～12歳、14～15歳の▲0.3kgである。

② 男女の比較(図2、表5)

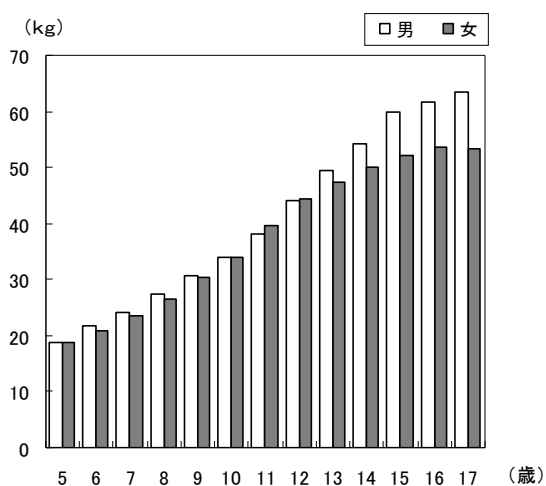
男女の体重を比べると、11歳で1.6kg、12歳で0.5kg、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4)

全国平均値と比べると、男子は、6～9歳、12～17歳で全国平均値を0.1～1.1kg上回っている。5歳、10～11歳で全国平均値を0.1～0.3kg下回っている。

女子は、10歳は全国平均値と同じ。その他の年齢は、全国平均値を0.1～1.0kg上回っている。

図2 年齢別 男女別 体重の平均値



(3) 座高

平成25年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の座高(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表3)

男子の座高は、5～6歳、11歳、14～17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.9cm増加しており、最も増加しているのは15～16歳の0.9cmである。10歳及び12歳は前年度と同じ。7～9歳、13歳では、0.3～0.5cm減少しており、最も減少しているのは9歳及び13歳の▲0.5cmである。

女子の座高は、5歳、9歳、15～17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.5cm増加しており、最も増加しているのは5歳及び16歳の0.5cmである。10歳及び12歳は前年度と同じ。6～8歳、11歳、13～14歳では、0.1～0.3cm減少しており、最も減少しているのは8歳の▲0.3cmで

ある。

② 男女の比較(図3、表5)

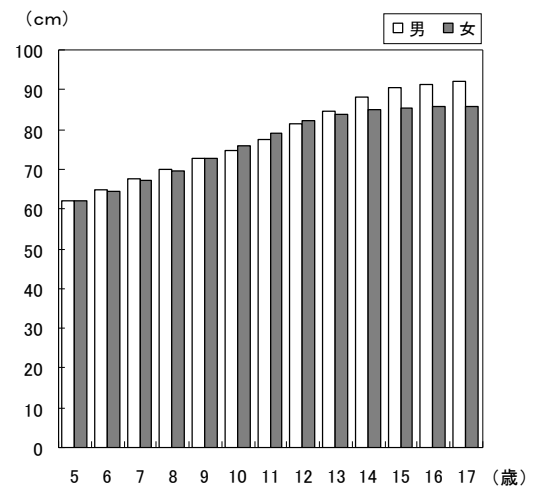
男女の座高を比べると、9～12歳で女子が男子を上回っており、11歳では1.6cm、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4)

全国平均値と比べると、男子は、5～6歳、12歳、15～17歳で全国平均値を0.1～0.3cm上回っている。9歳は全国平均値と同じ。7～8歳、10～11歳、13～14歳では、全国平均値を0.1～0.2cm下回っている。

女子は、5歳、12歳で全国平均値を0.3～0.5cm上回っている。6歳、9歳、13～14歳、16歳は全国平均値と同じ。7～8歳、10～11歳、15歳、17歳では、全国平均値を0.1～0.3cm下回っている。

図3 年齢別 男女別 座高の平均値



(4) 県平均値における1年間の発育量

身長・体重・座高の県平均値について、各年齢時の1年間の発育量をみると、次のとおりである。(図4、表6)

① 身長

男子は、11～12歳時に発育量が増加しており、11歳時が最大となっている。

女子は、8～10歳時に発育量が増加しており、9歳時が最大となっている。

② 体重

男子は、11～14歳時に発育量が増加しており、11歳時が最大となっている。

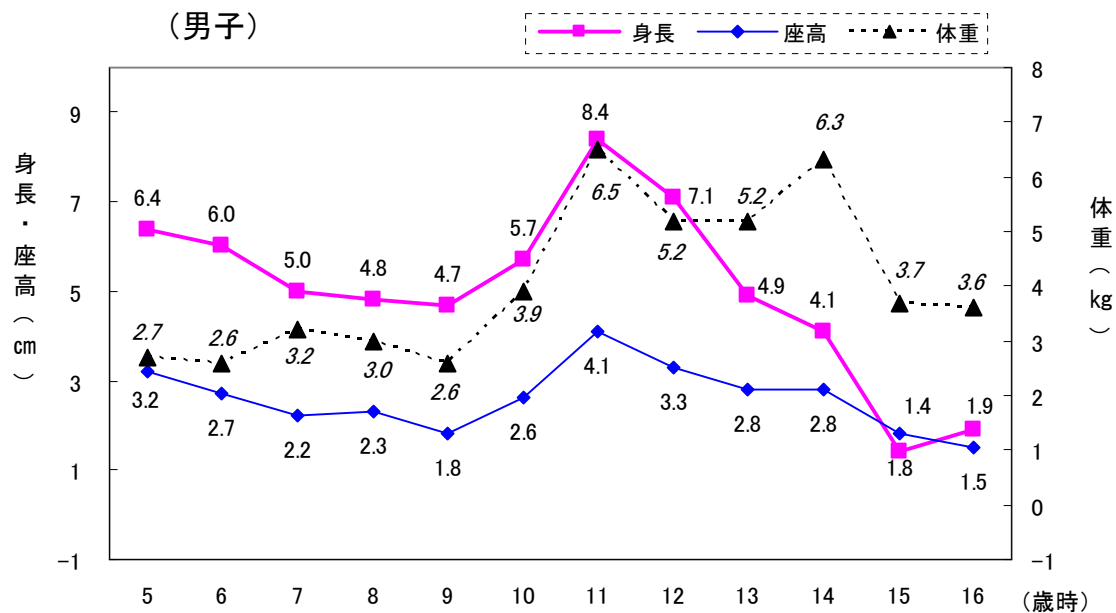
女子は、10～11歳時に発育量が増加しており、10歳時が最大となっている。

③ 座高

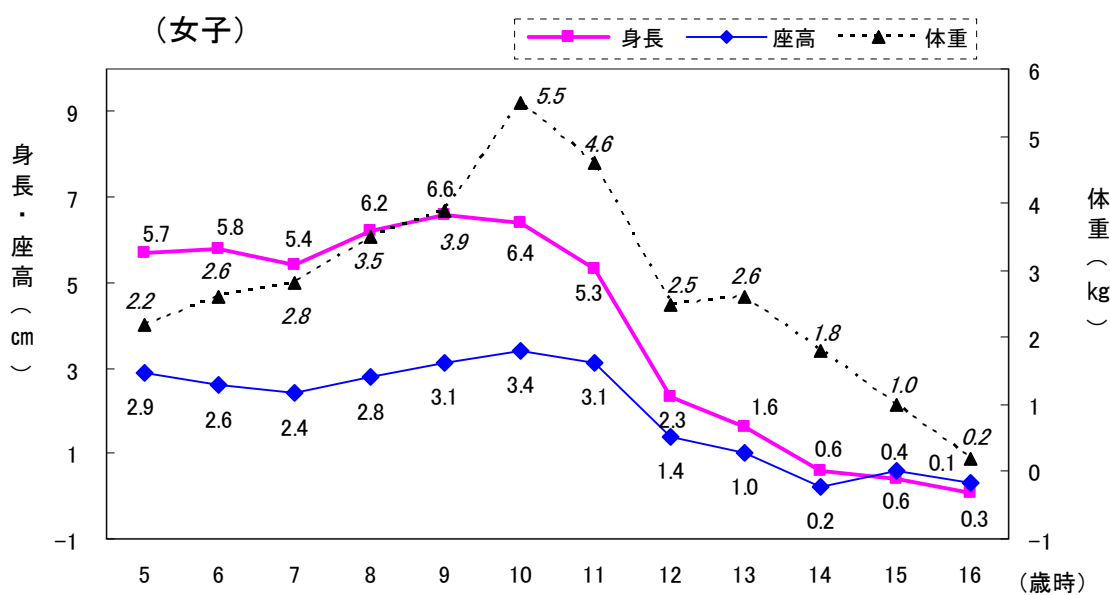
男子は、11～12歳時に発育量が増加しており、11歳時が最大となっている。

女子は、9～11歳時に発育量が増加しており、10歳時が最大となっている。

図4 県平均値における1年間の発育量



注) 1年間の発育量…(例)5歳児の発育量は平成25年度の6歳児の県平均値から平成24年度の5歳児の県平均値を引いた数値。



(5) 県平均値における親世代（昭和58年度）との比較

身長・体重・座高の県平均値について、その親の世代である30年前の昭和58年度と比較してみると、5歳児男子の身長・体重・座高、5～7歳児女子の座高は親世代を下回っている。7～8歳児男子の座高は親世代と同じ。その他は、男女とも各年齢において親世代を上回っている。（図5、図6、図7、表7）

① 身長

男子の身長を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親世代より3.1cm高い。

女子の身長を比べると、最も差がある年齢は10歳で、親世代より2.5cm高い。

② 体重

男子の体重を比べると、最も差がある年齢は15歳で、親世代より4.0kg重い。

女子の体重を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親世代より2.6kg重い。

③ 座高

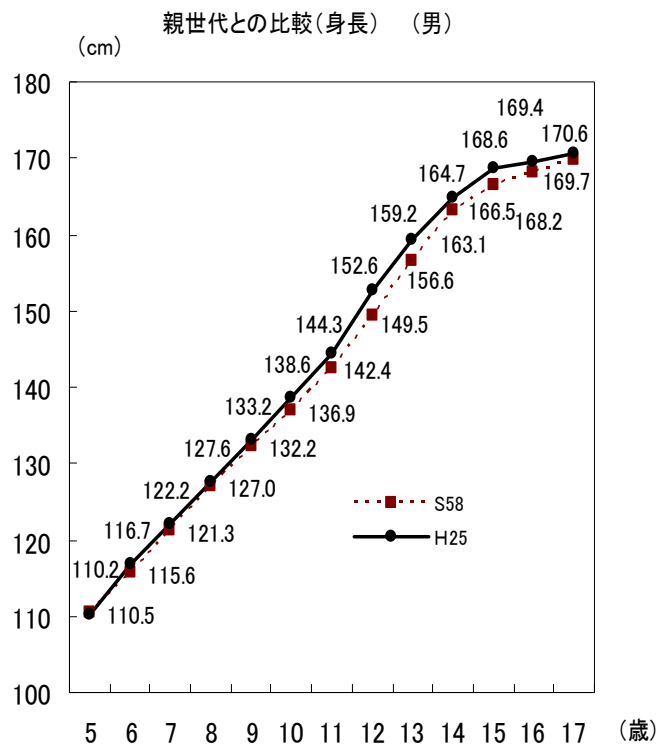
男子の座高を比べると、最も差がある年齢は15～16歳で、親世代より2.0cm高い。

女子の座高を比べると、最も差がある年齢は10歳及び12歳で、親世代より1.1cm高い。

なお、身長から座高を引いた足の長さ（下肢長）を比べると、最も差があるのは、男子は12歳で1.5cm、女子は10歳で1.4cm、親世代より長い。

図5 県平均値における親世代との比較(身長)

身長 (cm) (男)		
	昭和58年度	平成25年度
5歳	110.5	110.2
6歳	115.6	116.7
7歳	121.3	122.2
8歳	127.0	127.6
9歳	132.2	133.2
10歳	136.9	138.6
11歳	142.4	144.3
12歳	149.5	152.6
13歳	156.6	159.2
14歳	163.1	164.7
15歳	166.5	168.6
16歳	168.2	169.4
17歳	169.7	170.6



身長 (cm) (女)		
	昭和58年度	平成25年度
5歳	109.8	110.0
6歳	115.1	115.4
7歳	120.8	121.3
8歳	126.3	127.0
9歳	132.3	133.7
10歳	137.5	140.0
11歳	145.1	146.5
12歳	150.3	152.1
13歳	153.9	154.4
14歳	155.9	156.4
15歳	156.5	157.1
16歳	156.9	157.3
17歳	156.8	157.6

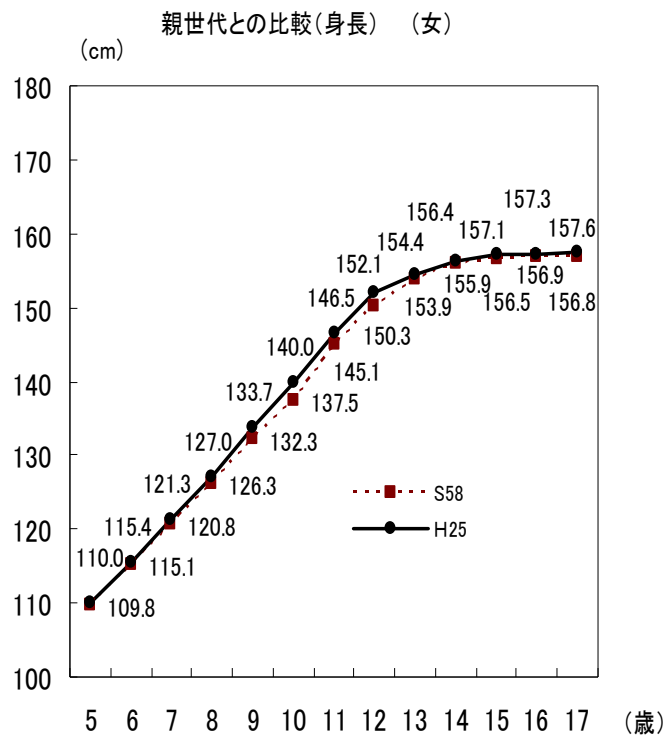
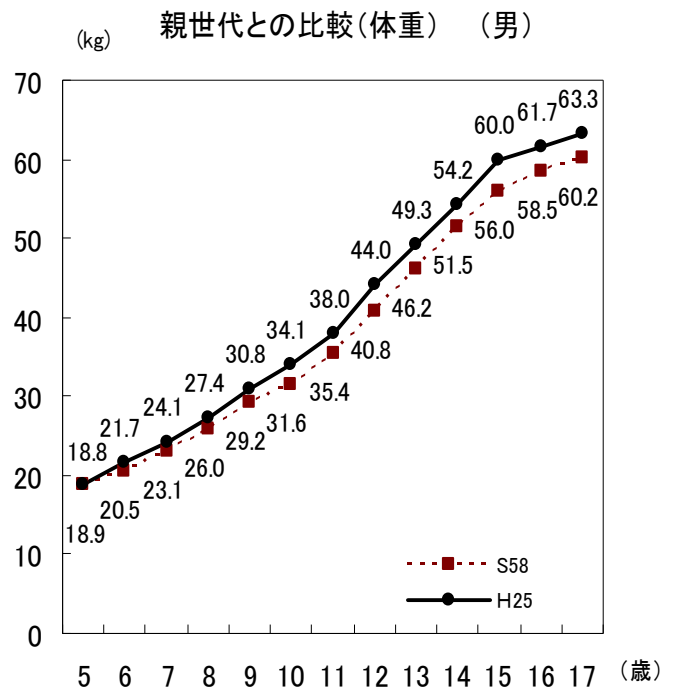


図6 県平均値における親世代との比較(体重)

体 重(kg) (男)		
	昭和58年度	平成25年度
5歳	18.9	18.8
6歳	20.5	21.7
7歳	23.1	24.1
8歳	26.0	27.4
9歳	29.2	30.8
10歳	31.6	34.1
11歳	35.4	38.0
12歳	40.8	44.0
13歳	46.2	49.3
14歳	51.5	54.2
15歳	56.0	60.0
16歳	58.5	61.7
17歳	60.2	63.3



体 重(kg) (女)		
	昭和58年度	平成25年度
5歳	18.6	18.7
6歳	20.5	21.0
7歳	22.8	23.6
8歳	25.4	26.6
9歳	28.8	30.4
10歳	31.8	34.0
11歳	37.4	39.6
12歳	41.9	44.5
13歳	46.2	47.3
14歳	49.6	50.1
15歳	51.1	52.2
16歳	52.5	53.5
17歳	52.4	53.2

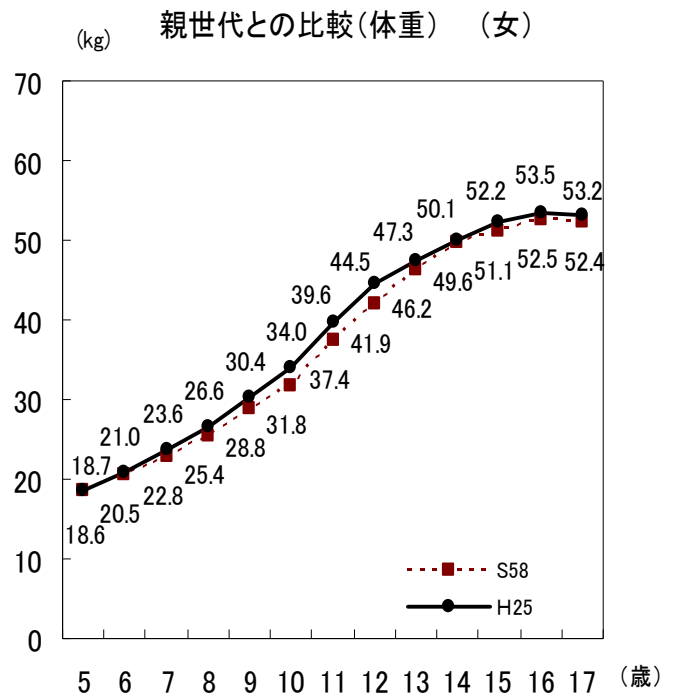
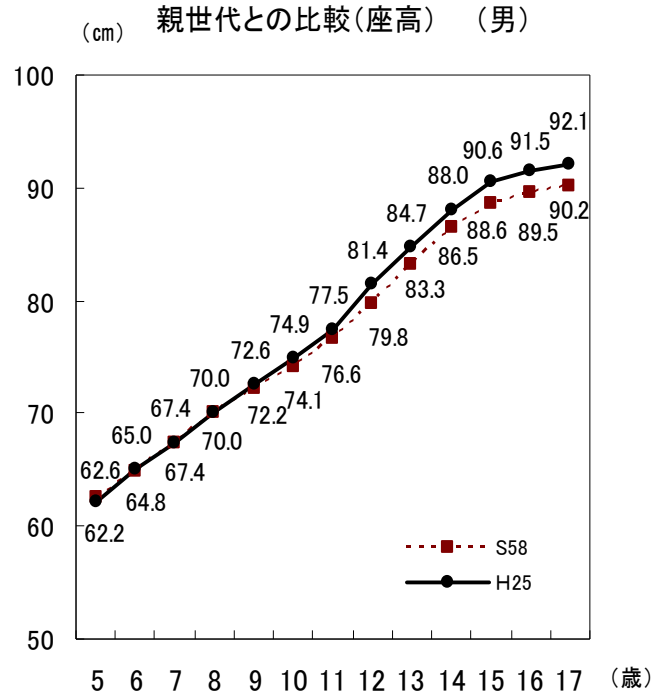
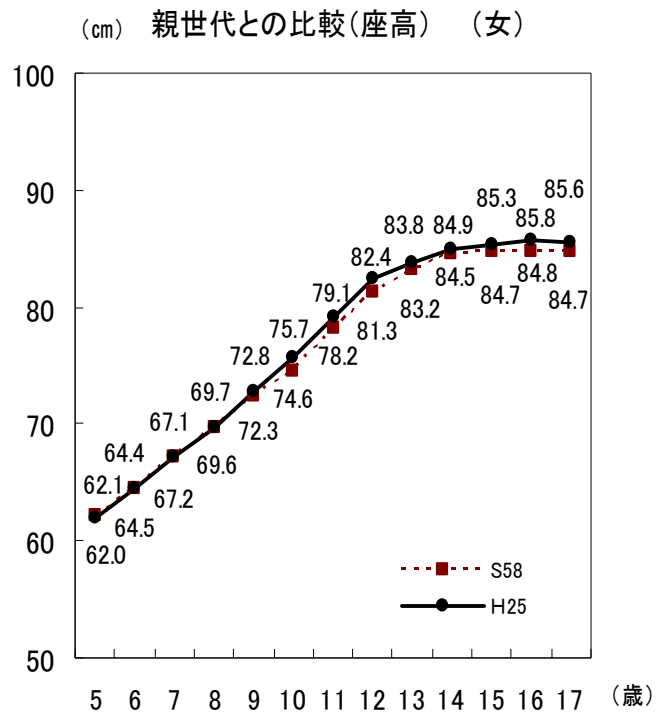


図7 県平均値における親世代との比較(座高)

座 高 (cm) (男)		
	昭和58年度	平成25年度
5歳	62.6	62.2
6歳	64.8	65.0
7歳	67.4	67.4
8歳	70.0	70.0
9歳	72.2	72.6
10歳	74.1	74.9
11歳	76.6	77.5
12歳	79.8	81.4
13歳	83.3	84.7
14歳	86.5	88.0
15歳	88.6	90.6
16歳	89.5	91.5
17歳	90.2	92.1



座 高 (cm) (女)		
	昭和58年度	平成25年度
5歳	62.1	62.0
6歳	64.5	64.4
7歳	67.2	67.1
8歳	69.6	69.7
9歳	72.3	72.8
10歳	74.6	75.7
11歳	78.2	79.1
12歳	81.3	82.4
13歳	83.2	83.8
14歳	84.5	84.9
15歳	84.7	85.3
16歳	84.8	85.8
17歳	84.7	85.6



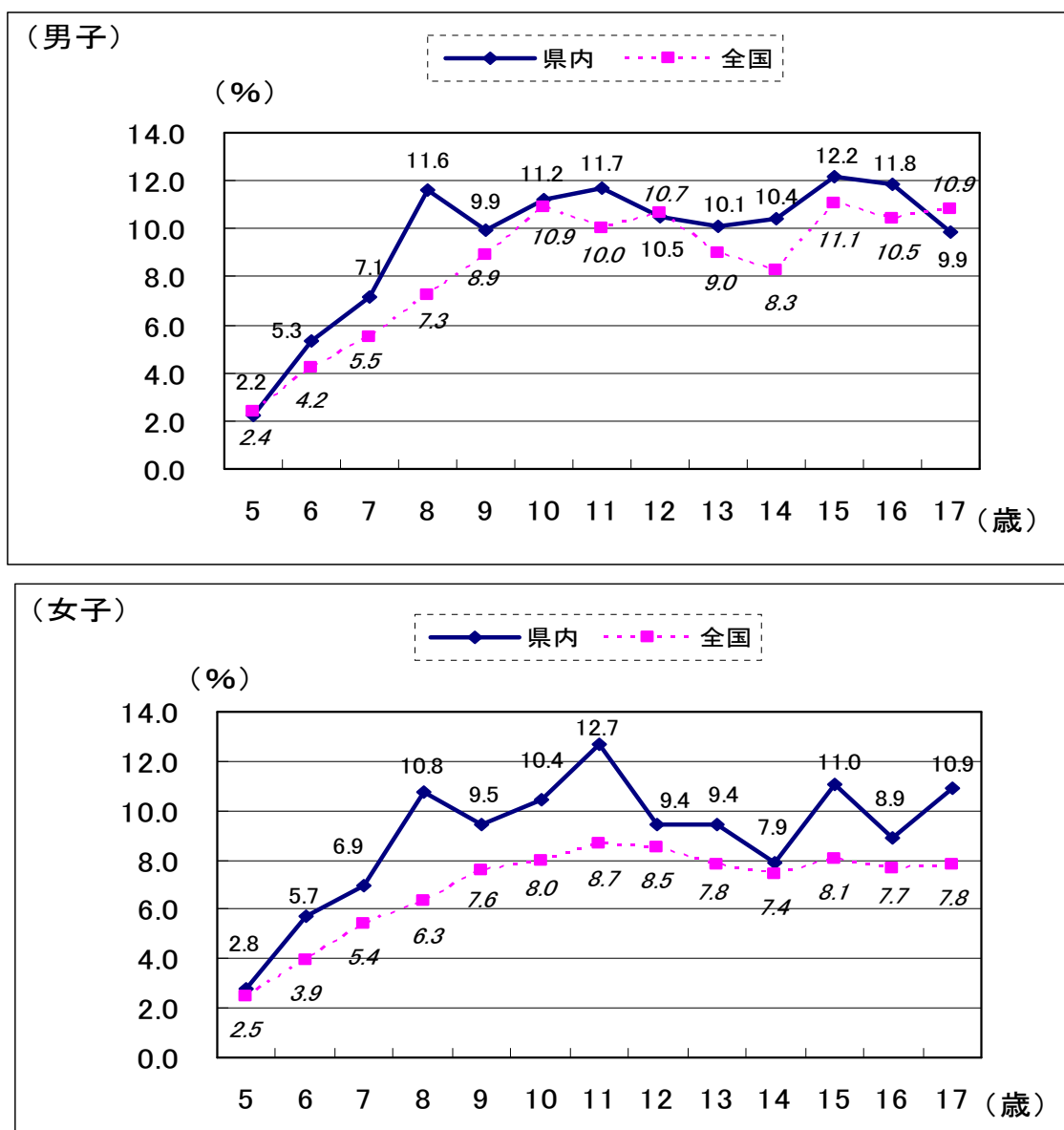
(6) 肥満傾向の者の出現率

県内における肥満傾向の者の出現率は、男子では、8歳、10～16歳で10%を超えており、15歳の12.2%が最も高くなっている。女子では、8歳、10～11歳、15歳、17歳で10%を超えており、11歳の12.7%が最も高くなっている。(図8、表8)

肥満傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、6～11歳、13～16歳で全国平均値を0.3～4.4ポイント上回っており、最も上回っているのは8歳で、その差は4.4ポイントである。5歳、12歳、17歳では全国平均値を0.2～1.0ポイント下回っており、最も下回っているのは17歳で、その差は▲1.0ポイントである。

女子は、すべての年齢で全国平均値を0.3～4.5ポイント上回っており、最も上回っているのは8歳で、その差は4.5ポイントである。

図8 肥満傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 肥満傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

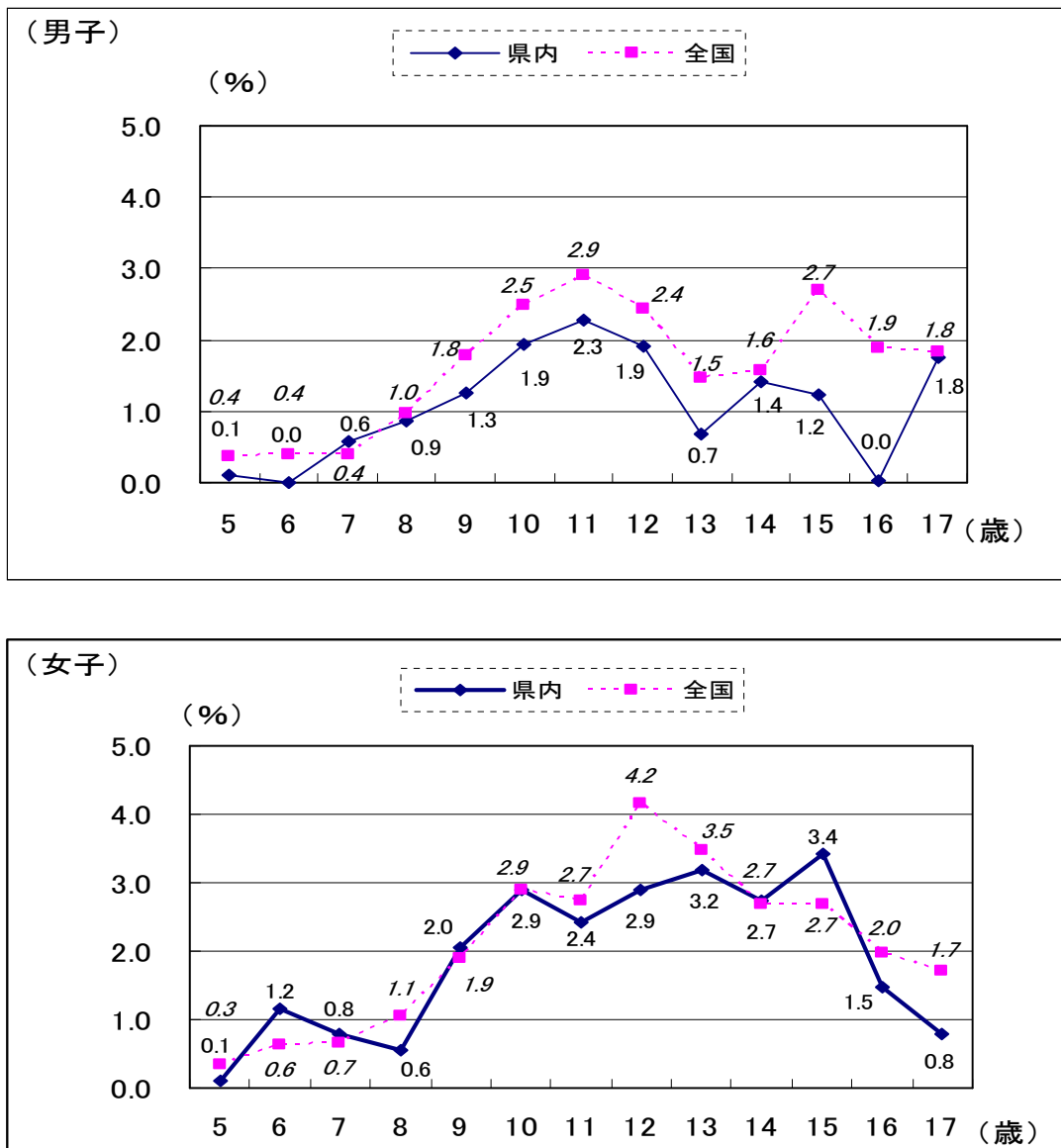
(7) 痩身傾向の者の出現率

県内における痩身傾向の者の出現率は、男子では、9～12歳、14～15歳、17歳で1%を超えており、11歳の2.27%が最も高くなっている。女子では、6歳、9～16歳で1%を超えており、15歳の3.43%が最も高くなっている。(図9、表9)

痩身傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、7歳で全国平均値を0.2ポイント上回っている。その他の年齢では、全国平均値を0.1～1.9ポイント下回っており、最も下回っているのは16歳で、その差は▲1.9ポイントである。

女子は、6～7歳、9歳、15歳で全国平均値を0.1～0.7ポイント上回っており、最も上回っているのは15歳で、その差は0.7ポイントである。10歳及び14歳は全国平均値と同じ。5歳、8歳、11～13歳、16～17歳では全国平均値を0.2～1.3ポイント下回っており、最も下回っているのは12歳で、その差は▲1.3ポイントである。

図9 痩身傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 痩身傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

2 健康状態調査結果

学校保健統計調査では、発育状態とともに、健康状態も調査しているが、熊本県の主な特徴は以下のとおりである。

(1) 裸眼視力1.0未満の者

平成25年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校 26.5%、中学校 50.1%、高等学校 66.9%となっている。(表10、表11)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を前年度と比べると、小学校、中学校は前年度を下回っているが、高等学校は前年度を上回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を全国平均値と比べると、小学校、中学校は全国平均値を下回っているが、高等学校は全国平均値を上回っている。

(2) むし歯(う歯)

平成25年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園 39.8%、小学校 62.0%、中学校 53.1%、高等学校 66.6%となっており、年齢別では、5歳が39.8%と最も低く、17歳が71.1%と最も高くなっている。

また、処置完了者の割合は、9歳以降、未処置歯のある者の割合を上回っている。(図10)

「むし歯」の者の割合を前年度と比べると、16~17歳を除き、その他の年齢では前年度を下回っている。(図11)

「むし歯」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において全国平均値を上回っている。(図12)

図10 むし歯(う歯)の者の割合

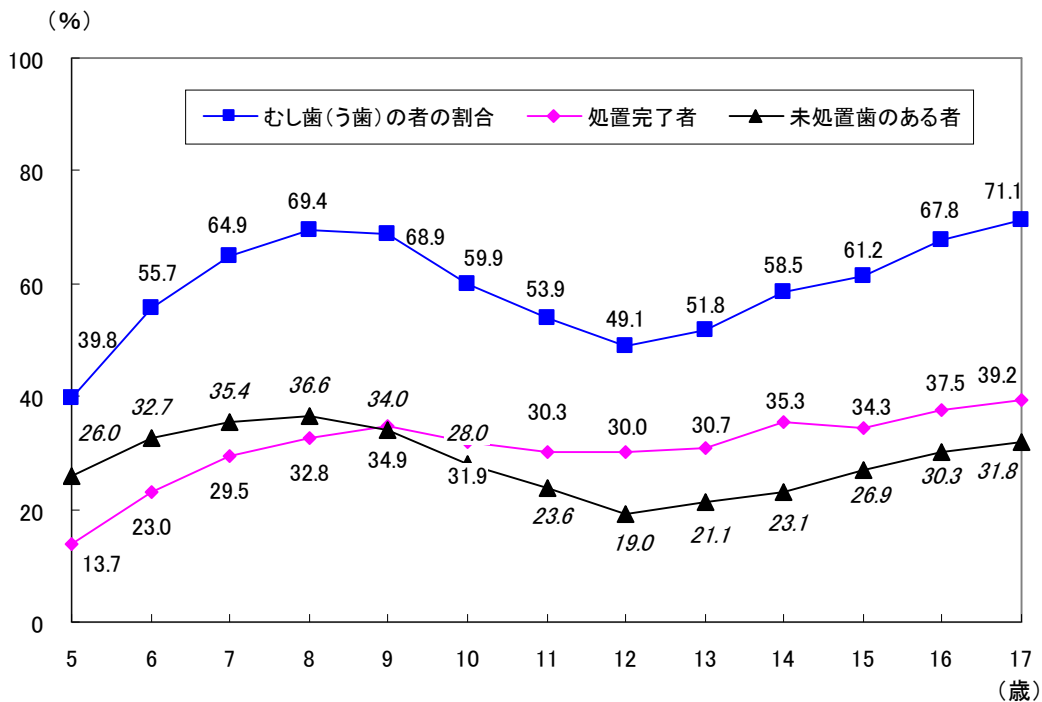


図11 むし歯(う歯)の者の割合の前年度との比較

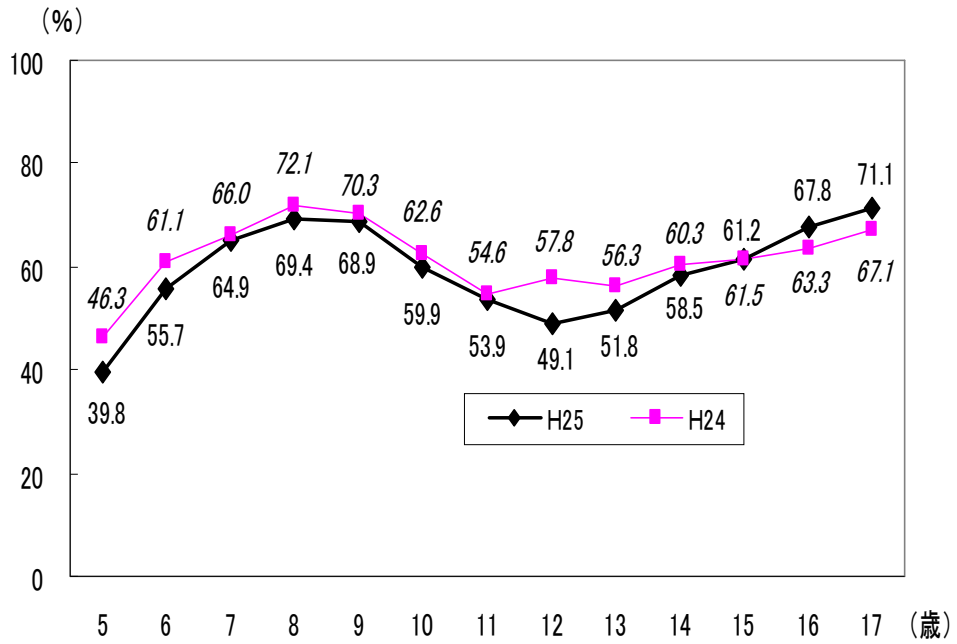
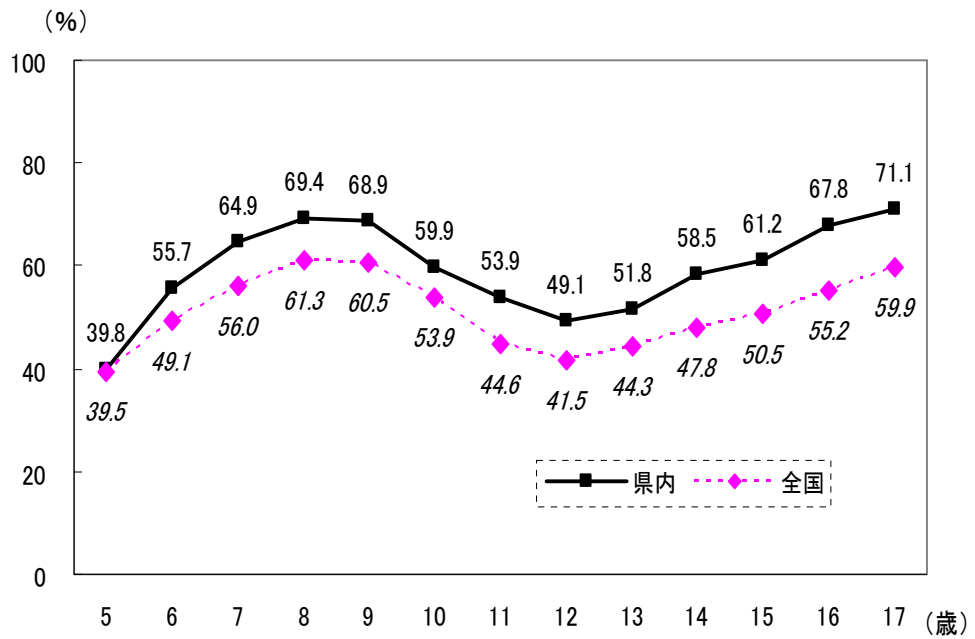


図12 むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較



(3) ぜん息

平成25年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園 1.9%、小学校 3.4%、中学校 2.1%、高等学校 1.1%となっており、年齢別では、7歳が 4.0%と最も高くなっている。

「ぜん息」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において全国平均値を下回っている。(図13)

図13 ぜん息の者の割合の全国平均値との比較

